

三浦文彰(ヴァイオリン)

Fumiaki MIURA, Violinist

2009年世界最難関とも言われるハノーファー国際コンクールにおいて、史上最年少の16歳で優勝。国際的に一躍脚光を浴びた。

東京都出身。両親ともにヴァイオリニストの音楽一家に生まれ、3歳よりヴァイオリンを始め安田廣務氏に、6歳から徳永二男氏に師事。

2003年、04年と全日本学生音楽コンクール東京大会小学校の部第2位、2006年4月ユーディ・メニューイン国際ヴァイオリンコンクール・ジュニア部門第2位などを受賞。2009年10月には、ハノーファー国際コンクールにて史上最年少で優勝。同時に、聴衆賞、音楽評論家賞も受賞。地元紙では「確かな技術と、印象的なヴィルトゥオーゾ性あふれる心温まる演奏は、国際審査員や音楽評論家の評価を得るにとどまらず、聴衆の心をもつかんだ」と賞賛した。また、The Strad誌は、「驚くべきその演奏がハノーファー国際コンクールを席卷した」と評した。

これまで国内主要オーケストラはもとより、ロサンゼルス・フィル、ロイヤル・フィル、ロイヤル・リヴァプール・フィル、マリンスキー劇場管、チャイコフスキーシンフォニーオーケストラ、NDRエルプ・フィル、ハノーファーNDRフィル、シュトゥットガルト放送響、フランクフルト放送響、プラハ・フィル、オタワ・ナショナルアーツセンター管、ユタ響、オレゴン響、コロムビア響、ワルシャワ・フィル、バーゼル響、ウィーン室内管、ローザンヌ室内管、香港シンフォニエッタなどと共演。

共演した指揮者には、ドゥダメル、ゲルギエフ、フェドセーエフ、ズーカーマン、カンブルラン、クリスティアン・ヤルヴィ、フルシャ、ドゥネーブ、大野和士などが挙げられる。

また、国際音楽祭にもたびたび招かれ、サンクトペテルブルクの白夜祭、モスクワのオレグ・カガンメモリアルフェスティバル、ブラウンシュバイクフェスティバル、宮崎国際音楽祭、シュレスヴィヒ=ホルシュタイン音楽祭、マントン音楽祭、ラクリン&フレンズ音楽祭、メニューイン・フェスティバルなどに出演。ペンデレツキ80歳記念演奏会では、ペンデレツキ自身の指揮で演奏。さらにリサイタルでも、ルーブルでのパリ・デビュー、ウイグモアホールでのロンドン・デビューは絶賛を博した。

NHK大河ドラマ「真田丸」テーマ音楽を演奏したことやTBS「情熱大陸」への出演も大きな話題となった。

18年10月からスタートしたサントリーホールARKクラシックスではアーティストティック・リーダーに就任して、音楽祭を主宰する念願を果たした。

19/20年シーズンのハイライトは、ドゥダメル指揮ロスフィル、白夜祭でのゲルギエフ指揮マリンスキー劇場管、ズーカーマン指揮バルセロナ響、ティチャーティ指揮ベルリン・ドイツ響、ロウヴァリ指揮エーテポリ響、エストラーダ指揮フランクフルト放送響、ポーガ=ケルン放送響、ダウスゴー指揮BBCスコティッシュ響、リットン指揮都響、モスクワ・ソロイツ、オルフェウス室内管、ウィーン室内管などとの共演が挙げられる。また、ピリスとのデュオリサイタル、ズーカーマンとの室内楽、バシメットとの室内楽、スペインや日本でのリサイタルツアーも予定されるなど、国際的活動の場を広げている。

CD録音も活発に行っており、リントウ指揮ベルリン・ドイツ響と共演した「チャイコフスキーとメンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲」、「名曲コレクション」などをエイベックス・クラシックスよりリリース。

09年度第20回出光音楽賞受賞。19年Forbes「30 UNDER 30 JAPAN」(世界を変えていく30歳未満の30人)に選出された。

これまでに、ザハール・ブロン、ジャン=ジャック・カントロフ、チョーリヤン・リン、パヴェル・ヴェルニコフの各氏に師事。(公財)明治安田生命クオリティオブライフ文化財団より奨学金を得て、ウィーン私立音楽大学に入学、パヴェル・ヴェルニコフ氏、ジュリアン・ラクリン氏のもとで研鑽を積んだ。

使用しているヴァイオリンは、宗次コレクションより貸与されたストラディヴァリウス 1704年製作 “Viotti”。